

令和6年度 第2回 熱海市総合教育会議 会議録

1. 開催日時：令和7年3月24日（月） 15時00分～16時00分

2. 会 場：熱海市第3庁舎第1～3会議室

3. 出席者：【構成員】市長〔議長〕・教育長・教育委員4名

【教育委員会事務局】事務局長・学校教育課専門監・学校教育課長・生涯学習課長・図書館長・教育保育推進室長・総務管理室長

【首長部局】副市長・経営企画部次長・企画財政課長・企画室長・企画室主幹・企画室主任

4. 議事要旨：以下のとおり。

（1）開 会

（2）市長あいさつ

開会にあたりまして一言ごあいさつを申し上げます。本日は大変お忙しい中、令和6年度第2回の熱海市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また日頃より熱海市の子供たちの教育の充実発展にご尽力を賜っておりますことを心から感謝いたします。

昨年の6月6日に第1回の総合教育会議を開催させていただいておりますが、その後、教育委員として1名新たに加わっていただき、教育委員会が新たな体制でスタートをしております。今回は新たな体制による最初の総合教育会議ということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題は、次第の通りであります。熱海市の望ましい教育環境のあり方という議題でございます。まず私の方から、本市の児童生徒のための望ましい教育環境を構築するためにどのような観点で考え、進めていくかについて、私の考えをお話させていただきます。これについて、皆様からご意見をいただきながら協議を進めて参りたいと考えておりますので、皆様の活発なご意見をよろしくお願いいたします。

（3）議事

①望ましい教育環境のあり方について

【説明】

（市長）

本日の議題は、熱海市の望ましい教育環境のあり方についてであります。私からは、これにつきまして、教育長並びに教育委員の皆様、本市の学校、学校教育環境の整備の方向性について、私のお考えをお示しさせていただき、価値感を共有し課題を解決していきたい、という思いであります。

お手元に資料を配布しております。冊子としてまとめてありますので、そちらをご覧ください。

ください。熱海市の望ましい教育環境のあり方について、資料1になります。

まず1ページ目をお開きください。まず1ページのところに児童生徒の減少や学校の小規模化が進む中で、将来に向かって子供たちの未来にとって望ましい教育環境を整備し、教育効果を高める観点から、今後の小中学校の適正規模・適正配置をどのように進めていくか、この羅針盤としてこの冊子をこの度まとめたものであります。

今後はここに示す考え方にのっとり、論点整理をし、適正規模・適正配置計画等の策定につなげていきたいと考えております。

2ページ目をご覧ください。小学校の適正規模・適正配置に係る基本的な考え方として1ポツの現状と課題に、児童数生徒数の推移を挙げております。

令和6年5月1日現在の本市の小中学校の児童生徒数は1,162人、児童が715人、生徒が447人で、10年前である平成26年度の1,776人と比較すると、約35%、614人が減少しております。そして、この減少傾向は今後も続くものと思われ、令和12年度の予想児童生徒数は860人程度と大きく減少するものと見込んでいます。

児童生徒数の減少が進みますと、複式学級の編制が増加することや、学年の欠損が進むと予想され、学校行事の実行が難しくなることや、中学校においても教員の配置数の削減によって、免許外教科の指導が増えたり、部活動の維持が難しくなることなど、様々な面から、これまで以上に学校運営に負の影響を与えることが懸念されます。

3ページをお開きください。学校規模の縮小に伴う課題が、教育活動、学校行事、また教員配置、PTA活動、部活動等に影響を与えていることを示しております。

またさらに、次の4ページ、また5ページには、小規模校における児童生徒の直面する課題についてお示しをしています。そして、これらの課題を受けまして、6ページになりますが、6ページでは学校施設の適正規模・適正配置の必要性についてお示ししています。

本市の子供のたちの未来を第一義として考えれば、複式学級や学年の欠損などの小規模化を解消し、熱海市の望ましい教育環境としての学校規模を確保していく必要があると考えます。

7ページをご覧ください。次に小・中学校の目指すべき望ましい教育環境についてお示しをします。8ページに整理をさせていただいておりますが、①の学校生活において児童生徒同士、また児童生徒と教職員が、多様な人間関係を築きながら切磋琢磨し、協調性、社会性を育む機会ができるように、多様な学習集団の編成や、クラス替えが可能となる学校規模。②としまして、体育、音楽グループ学習や学級活動を今後求められる主体的、対話的で深い学びの実現に向け、制約のない学校規模。③としまして、クラブ活動、委員会活動、部活動において児童生徒のニーズに応じた多様な活動編成を実施できる学校規模。④として、小中学校において、各教科に専門の教職員を適切に配置でき

る学校規模。⑤として、複式学級においては、直接指導と間接指導を組み合わせ、複数学年を指導する場合が多く、一般的に教育上の課題が極めて大きく生じることが指摘されるため解消が必要。⑥として熱海市の特色である、自校式の給食を経済的に提供できる児童生徒数を維持できる学校規模。こういう形で整理をさせていただきまして、これらを達成できる環境に整備していくことが必要だと考えております。

次に、望ましい学校規模の目安でありますけれども、その目安としてクラス替えが可能な、1 学年 2 学級以上が望ましいわけではありますが、小学校においては、通学距離や、また地域性なども考慮しながら運用すべきものと考え、弾力的に運用するものいたします。小学校では 9 ページの表に整理をいたしました、学年 15 人以上、6 学級以上、全校 90 人以上を目安とし、課題にあります中学校では、学年 50 人以上を 6 学級以上、全校 150 人以上を目安としております。

学校規模の適正規模・適正配置により、遠距離通学となる場合は、スクールバスを運行する、または通学定期券の補助等を導入するものとし、その場合の通学時間は概ね 1 時間以内を目安とします。また、児童生徒に学校施設の適正規模・適正配置を複数回体験させないよう、課題が顕在化し、それが拡大している小学校の適正規模・適正配置を中心に進めていきたいと考えております。また、その完了の時期であります、令和 10 年、2028 年 4 月と設定し、これを目指していきたいと考えます。

そして小学校の適正規模・適正配置計画として、具体の案であります、これは現時点で示せるものではありません。しかしながら、今後教育委員会において、教育委員の皆様、今日全員ご出席いただいておりますが、保護者、また地域との話し合いの中で、この当該計画を立案していってもらいたいと考えます。

適正規模・適正配置の編成をする小学校において、特に取り組むべきこととして、学力の向上のために資する ICT の導入とその十分な活用や、いじめ及び不登校対策の充実、支援を必要とする児童を確実に支援する仕組み等を考え、実行できるようにして参ります。

このような考え方に基きまして教育委員会では、保護者、地域の方々と話し合いながら、熱海の児童生徒の教育環境を望ましいものとするために、力を尽くしていただきたいと思います。もちろん、私をはじめとして市長部局も、教育委員会とともに力を合わせて、課題解決に取り組んで参りたいと考えております。

熱海市の望ましい学校教育のあり方について、私からの説明は以上になります。

それでは、続きまして、教育委員会の事務局から補足の説明をお願いします。

(資料 2 について教育委員会事務局より説明がなされた。)

【質疑等】

(市長)

それでは、これまでの説明につきましてご意見やご質問がありましたら発言をお願いいたします。

(A委員)

ご説明ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

今、様々なグラフなどとともに、人口減少の問題から、それから子供たちをこれから考えていかなければいけない諸問題が映し出されたと思いますが、私からちょっと伺いたいことは、プロジェクターの方であったでしょうか、小規模の学校になっている状態でのメリットデメリットのようなものが一覧で映し出されましたけれども、例えば小規模校ですと、人間が少ないということもあって、先生方の目が行き届きやすく、教育として手厚いものが受けやすく、または、今のこの現代において、もしかしたら一番の問題として思わなければならない「家庭」がとても教育力を失っており、人と人も繋がりが希薄になっているということを、小規模ならではの家族的な中で解消されていくような部分もあると思うんです。

それを踏まえた上で、いわゆる小規模校と言われる学校の問題点をどのように考えて、どこが一番悪いとか、改善したいとか、そういうところがございましたらご説明お願いいたします。

(教育長)

ありがとうございます。私からお答えさせていただきます。

先ほど説明をしていただきましたけれども、その中にもございましたが、小規模校の問題は様々に考えられるところでありますけれども、まずクラス替えができないということ、そしてクラス内での男女の偏りが大きく生じる可能性があるということ、そして、人間関係が固定化して卒業まで変わらないでいくことで、固定化した人間関係による学習意欲の低下、また団体スポーツ、実技、合唱合奏などの団体競技が困難になることなどがあると思います。以上です。

(市長)

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

(B委員)

ご説明ありがとうございました。市長からの適正規模、配置の必要性のご説明、それから事務局からの熱海市の教育環境の具体的なデータ、これらをお聞きして、この熱海市の状況とか必要性はわかりました。

現在、先ほど出されましたがメリットデメリットがいろいろある中で、各学校が工夫して教育活動を進めているのは事実だと思います。

しかし、そこには少人数という、もうどうにもしょうがない物理的な課題があるのも事実です。

適正規模・適正配置を実施する上で、特にこの熱海市として実施していく、重点となる大きなねらいというのは、どのようなものだとお考えでしょうか。

(市長)

先ほどの私の冒頭の説明の中で申し上げましたが、子供たちがいろいろな経験をして成長していく中で、やっぱり一定規模を確保することが望ましいというのが、そもそも基本的な考え方です。

少人数になれば、丁寧なきめ細やかな、ということもあるんですけども、一方で、多様な考えに触れたり、切磋琢磨という言葉がありますけれども、そういったことを経験して一人一人の児童生徒の資質や能力を伸ばすためには、一定規模の数を確保するということが望ましい。それが基本の考え方、ねらいでございます。

(B委員)

続けてお願いしたいんですが、実際にこの適正化の検討にあたっての市長としての考えというのは、どのようなものなんでしょうか。

(市長)

第一義として子供たちの環境をきちんと教育環境を維持する。それがもう原理原則であります。

そして、これはこれから皆さんに、まさに教育委員の皆さんにも議論いただきたいんですけども、小規模校で残す、というそういう議論もあるかと思います。一方で、適正規模・適正配置を進める。いずれにしても、子供たちの環境を維持、あるいは、よりよいものにする、ということを原則として、原則的には学校の設置者である市として、皆様の意見を伺いながら自治体として決めていく。こういった判断をしていくということを基本にしていきたいと考えております。

(A委員)

引き続きよろしくお願いいたします。市長から最初にご発言のありました、これからの望ましい学校の学級数、数のところで質問をさせていただきたいのですが、この表で見ますと、特に小学校は1学年15人以上というのが出ておりますけれども、この望ましい学年の人数としての設定の数は少し少ないのではないのでしょうか。

(市長)

ここで、こういう形で整理をさせていただきました。国でも望ましい基本的な数字というのがありますが、それに比べるとこの基準が低いと、そういった部分はあるんですが、私は現実的に、今、熱海市内にはもう国の基準では、もう小規模の学校しかない、という中で、これから適正規模・適正配置計画をする際の最低の基準を示させていただいた、そういった思いがございます。近い将来、もう少し長いスパンで見ると、さらに踏み込んでいく必要があるかもしれないですが、そこは今後いろいろな検討する中で協議をしていただきたいと思います。まずはここからスタートするのが現実的ではないかなと考えております。

(C委員)

ご説明ありがとうございます。よろしくお願いします。

適正化とか、統廃合がもし行われた場合ですね、通学の距離とか通学時間がどうしても長くなってしまうことも考えられると思うんです。その時の児童とか生徒の負担が少なくなるような方法は何かないのでしょうか。

(教育長)

先ほど市長から話があった中にもありましたけれども、適正規模・適正配置計画を今後進めていく中で児童生徒の負担が少なくなるような通学の時間、ということでありますけれども、できる限り、概ね1時間以内で通学ができますように、通学バスの運用などを、考えていく必要があると思っています。

(C委員)

今、示された令和10年度の再編成ということを完了させるというような内容があったかと思うんですけども、これはもう決定事項なんではないでしょうか。

(市長)

先ほど、この資料の中にもその完了時期を令和10年に設定する、とさせていただきました。決定事項というか、今そういうご質問ですが、まず目標を定めないことには、なかなか物事を前に進めることは難しいので、この後、このぐらいが適当というかな、これから委員の皆さんには、保護者の皆さんやまた地域の皆さんと協議する中で、最終的にはそういう中で決まっていくと思っておりますが、先ほどここで表示があったような、今後の生徒数の予測を考えると、私の視点から見ると、これは一番、遅いタイミングというか、ある意味ぎりぎりのタイミングというか、私はそのように考えております。ここからまた議論をスタートしていただいて、決定していければいいか、というふうに考えております。

(D委員)

学校訪問で、各校の様子を拝見させていただいて、小規模校のメリット、デメリット、子供だけでなく、保護者の方、教職員の方に対してもそういうことは実感させていただいています。今一度確認させていただきたいんですけど、小学校の適正規模・適正配置計画を作るということによろしいでしょうか。

(市長)

私から皆さんにお願いしているのは、小学校の適正規模・適正配置計画を作っていたきたいということですけども、そこについては、先ほど申し上げましたが、その小規模校を残すという選択肢も、除外せず、まずフラットな形で地域の皆さんと保護者の皆さんとしっかり話し合いをしていただきながら、決めていただければというふうに思っております。そして、その中でどうあるべきか、ということ、また当局の方に示していただければ、というふうに考えております。

(D委員)

再編成について、やはり子供たち、保護者の方、地域の方に、そうなった場合にぜひ寄り添って欲しいなと願うところなんですけど、やはりその時は地域の皆さんに限らず気になるところだと思うんですけど、再編成となった場合の校舎の跡利用に関して教育委員会では決めかねると思うんですけどその辺りいかがでしょうか。

(市長)

まだそこまで、現時点でお答えできるところは、なかなかないわけではありますが、もし地域の皆さんの中から、何かアイデアや希望、要望があれば、ぜひ我々の方に、市の当局の方に伝えていただきたいと思います。跡地の利用については、すでに今そういう

場所が熱海にもあるわけですが、なかなか簡単に決まるものではないところもあります。早急に回答が見つかるようなものではありませんので、まずは適正規模・適正配置計画について、ご協議をいただきたいというふうに思います。

(B委員)

今後の熱海市の望ましい教育関係を構築するということで、いろいろお話をお伺いしました。やはり、望ましい教育環境ということとなると、述べられている適正規模・適正配置計画を進めていく、これは意義があることで必要性もあるのかなと考えております。

先ほどもデータで示されたように、出生数は確実に減少しているのは事実です。先ほどの数値をとりますと、6年後の令和12年、児童生徒数は今年度の四分の三になりますね。25%いなくなります。この減少に歯止めがかからなければ、その先はどうなるんですか。たかだか6年後で25%減る。10年たったら、20年だったら熱海ってあるんでしょうか。去年の4月に熱海市は消滅可能性自治体というようなことで位置付けられました。

少子化は全国的な傾向で、特に熱海市は顕著で憂慮すべきことかなと考えております。今までのお話をお伺いして、この現状の子供たちの減少率を考えながら、今後の望ましい教育環境ということですが、そもそも並行して考えるべき課題は、いかに人口、特に若い世代、子育て世代をふやすということじゃないかと。

それなくしては、ただただ減ってくのを待つ、ということになるかなと思います。

ただ、現在熱海市に住んでいる、子供を産み育てていく世代の方に対する、子育て支援政策というものを拡充してくださっている、ということは評価できますが、そのみならず、その世代の方が熱海市に居住しない、あるいは転出してしまふ、そのことが、出生数や年少人口の減少にも大きく影響していると考えます。ネットで拾ったんですが昨年度4月の消滅可能性自治体の話題が出たときに、市長のコメントの中で、交流人口が移住に繋がるような仕組み、それから民間の住宅を子育て世代、働く世代にリーズナブルな価格で供給していくなど、行政としてサポートを進めていく、というようなお話をされたかなと思います。どうしてもこのように、人口減のことについては、多分いろいろ考えてくださっていると思いますが、この後、特に若い子育て世代の居住促進のための方策、あるいは市長みずからの解決方法と、何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

(市長)

教育委員さんから、住宅政策の話が今出たんですけど、でもここは大変本質的なところではありまして、そもそも熱海市の人口をどう減らす速度を遅くしていくか、熱海の交流人口、宿泊客数も順調に回復していく中で多く聞くのが、働き世代の、子育て世代の方が、就業人口として来ようとしてもリーズナブルな価格で適正な住宅が非常に限られているという声を、これは以前から聞いております。そういったことからこれから住宅施策を充実させるということが大きなテーマだと思っています。

熱海は、ご案内の通りですが、まず街中に住宅の用地ですね、こういった地形ですが用地が少ない。またマンション等あっても、リゾートマンションであって、いわゆる一般向けでない、そういったことからファミリー層のニーズに合ったものが限られて

いると。そういった、現状があります。

これまで市の住宅政策というと、市営住宅に対応することが、ほぼそれが住宅政策だったんですが、これからは民間向けの住宅施策ですね、施策を考えて打っていかなければいけないと思っております。そのための、住宅の基本の計画も、すでに作ってこれから具体的な施策を打ち出していく、今そういう段階に来ていると自分は認識しております。まだこの段階では決定しているわけではありませんけれども、ファミリー層のニーズに合った住宅を確保するための、これ例えばですけれども、空き地や民間住宅、またリフォーム等に対しての補助制度を創設するということも考えられますし、また市内にある建物もかなり老朽化している建物が多いわけですから、こういった老朽化したビルをさらに更新する方法、全国でもいろいろな今新しい取り組みも行われておりますので、そういったことの調査研究を今行っているところであります。

いずれにしても、今委員のご提案された住宅政策、居住促進というのは、ひいては、人口減少問題に資する施策ですので、これについては、教育委員会でない部署が中心になりますけれども、市役所全体として、また教育委員会とも、しっかり意見交換しながらですね、進めて参りたいと思います。

(C委員)

ちょっと確認させていただきたいんですけども、周辺の自治体で、学校の統廃合とか、もういくつかあると思うんですけども、どのような状況になっているかというのをお聞きしたいんですけども、よろしいでしょうか。

(教育委員会事務局長)

私の方で調べさせていただきまして、隣の伊東市さんにおいては令和3年度に南小学校と川奈小学校を統合しまして、南小学校へ川奈小学校が編入しています。

また、令和5年度は、旭小学校、西小学校、東小学校が統合されまして、伊東小学校ということで、東小学校の校舎を使って伊東小学校が成り立っております。

また、計画ですが、令和9年度は、北中学校、南中学校、門野中学校の3つを北中を南中または門野中と統合し、将来的に南中と、門野中を統合するというような計画があるそうです。

また、令和12年は、これも計画ですが、宇佐美小学校と、宇佐美中学校を宇佐美小中一貫校とするという計画もございます。

また同じく令和12年度は、大池小学校、南小学校、南中学校、門野中学校を、令和12年までは現状で維持しますが、門野中学校をいずれ統合するという事で、大池、南小、南中が1つになって、そこへ北中をつけるというようなことになると思います。

また令和13年度、これも計画ですが、池小学校、富戸小学校、八幡野小学校を対馬中と統合し小中一貫校として出発するという計画があって、伊東市はこの様々な計画により、すべての小中学校の統廃合が完了する、というような計画を立てています。

下田市においては、令和4年度に下田中学校、稲生沢中学校、稲梓中学校、下田東中学校を下田中学校に編入しました。

あと伊豆市では令和7年度この4月からですが、修善寺中学校、中伊豆中学校、天城中学校を伊豆中学校として統合し、伊豆市の中心部分に学校を移すというような案を出し

ております。

(D委員)

今ご説明いただいた周辺自治体の統合状態、統廃合の状況を教えていただいたんですが、地域的にも近いので、その際の保護者の方ですとか、地域の方の様子、もしお聞きになっているようでしたら教えてください。

(教育委員会事務局長)

伊東市に昨年、皆さん方と一緒に伊東小学校に行きましたが、その時教育部長に聞いた話では、令和5年度の3小学校を1つにして伊東小学校にしたときに、それぞれの学校の統合までの準備を十分に時間を取ったので、実際に統合するまでの混乱はほとんどなかったというような話を聞きました。ただ、やはり通学バスの問題があり、通学バスが7便、最大7便出るというのがありまして、通学に時間がかかってしまうという問題がありました。

令和9年度以降は計画なのでまだ動きはわかりませんが、今後とも伊東市さんの状況については、教えてもらえるような状況ですので、そういったところも情報交換していこうと思います。

(B委員)

全くの私見で、認識ずれがあったら申し訳ないんですけども、市長も前々から「住まうまち」ということで、熱海のことをずっと考えてくださいますけど、とにかく町ってというのは、人が住むことで成立していくものですよ。今観光が本当に、市長はじめ市の職員の方、それから官民一体になって旅館とかで頑張ってくれて、すごく熱海はブームなんですけど、これがいつまで続くのかな、という懸念もあります。今、若い人が多いっていうけれども、SNSなんかで若い人はもう敏感だから、すぐに反応するけど、ではこれがまた逆に廃れたらどうなるんだろう。

観光はすごく目に見えて、一般の方もわかると思うんですけど、教育環境についてはどうなのでしょう。自分なんかは、おかげさまでこういう場に居させてもらっているんで、様子がわかるんですけども、一般の市民の方が、例えば、今のこの子供の少ない現状とか、統合を考えていかなきゃならない熱海の現状とか、そのような状況をなかなかわかってないんじゃないかなって感じるんですよ。何も子育て世代だけが自分のこととして考えるだけじゃなくて、本来はやっぱり熱海市民としても考えて欲しいなとあるんですよ。よく言われてきたのが、子供は未来の宝だと。その子供たちがいなくなっちゃう。あるいは狭い人間関係の中で、嫌な思いをした子は、熱海なんか嫌だなと思って出て行ってしまえば、人数はまた減っていく。とにかく、熱海の人たちみんなにこういう熱海の状況を知ってもらって、未来にどうなるのかなということに関心を持ってもらいたいなって思うんですよ。

今後、この熱海市の望ましい教育環境を構築していく。そのためには、適正規模・適正配置が必要だ。これを皆さんにやっぱり知っていただいて、どうするのが一番いいのかな、子供たちにとって熱海にとってどうすればいいのかな、ということを、少しでも熱海市民に考えてもらえるような働きかけもしていただきたいなと願っております。

(市長)

ご提言というか、それは私としては熱海市頑張れということだと思いますので、今日はこのテーマで議論をいただきましたが、根本にあるのは、まずこの町がきちんと人口をしっかりと維持するとか、ここに住まう市民が、あるいは地域居住者も含めて、皆さんが幸せに暮らしていただくということが、最終目標なので、私は観光はある意味手段だと思ってますんで、お客様が来ることによって、この町の7割からおそらく8割ぐらいの方が何らかの形で、観光に関連した産業ですので、それによって所得が上がり、生活が豊かになるというのが、基本的な考えです。そういう中で、全国的な傾向でもあります、少子化が進んで、今日お話があったように、子供たちの教育環境が今激変していると、教育環境をきちんと維持するためには、私の方から申し上げた、適正規模置・適正配置を進めていかざるをえないというふうに考えております。

このことについて皆さんで地域の皆さんと、また保護者の皆さんとご議論いただきましたんですが、それによって、今の環境が維持され、またさらにそれを私は伸ばしていきたい、レベルを上げていきたい、先ほどの話ですけど、熱海の学校に行ったら嫌な思いをして出て行く、ではなくて、熱海の学校に行ったら、本当に自分がよかった、自分の子供たちもまたここに来させたい、あるいは、外から移住者が熱海の教育を受けさせたい、観光業で働いて選ぶんだったら熱海だよな、というふうにしていきたいという思いがございします。

教育環境については、これから子育ても含めてですけども今日は小中学校が、学校が大きなテーマになっているんですが、就学前についても、今新しいこども園を南熱海に、今計画しているところですが、そういう環境も、もう本当にレベルの高い、私は日本一のこども園にしたいと思っているので、そういったところも含めて、人口は減りながらも、しっかりとそこに通う子供たち、またそのご家族の皆さんも、皆さんが、満足度が高まるような施策を、先ほど住宅の話も出ましたが、全体で進めていくというところが大きな目標でございします。

全国の自治体というよりも、温泉観光地がもう本当に疲弊をして、今若いお客さんが移り気だからすぐ変わるかもしれない、それは本当にその通りで、そうならないためにも、しっかりと観光財源もこの4月から確保していく仕組みもございしますし、しっかりと産業を維持しながら、ここに住まう皆さんが豊かな暮らしができるよう教育も含めて行って参りたいと思っております。応援の声というふうに受け取らせていただきました。

(B 委員)

ありがとうございます。大いに期待しております。

(市長)

他にいかがでしょうか。

(教育長)

本日の総合教育会議におきましては委員の皆様からたくさんの忌憚のないご意見、ご質問をいただきまして本当にありがとうございました。教育委員会といたしましては今後、今ありましたけど市長の示す方針に従いまして、人口の変化など様々な本当に難し

い要因を含んだ小学校のあるべき姿を提案できますように検討を進めて、次回以降の総合教育会議において提案できるよう進めて参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いをいたします。

(市長)

教育長がうまくまとめていただきましたが、事務局から何かございますか。

(事務局)

特にございません。

(市長)

それでは以上をもちまして、令和6年度第2回の熱海市総合教育会議を終了させていただきます。長時間大変お疲れ様でした。

(4) 閉会

終了 16 : 00